

第1回 まちづくり常任委員会報告

1月14日

○調査事項

町民課所管

(1) 幌延町ファミリー・サポート・センターの概要について

① 料金の授受はサービス提供者と受ける側との直接のやり取りとの話だが、サポートセンターが間に入ってやり取りしたほうが良いのではないか。

② 提供会員と依頼会員の受取するお金がイコールである場合、こういう形をとっていることが多い。支払った中身は全て記録簿に細かく記入する。実費を伴う場合も、事前にきちんと打ち合わせしたうえで行うルールになっている。

(2) 幌延町公衆浴場「憩の湯」

営業時間の変更について

③ 職員は何人に対応し、時給はいくらか。

④ 管理人3名、清掃員2名の5名体制でローテーションを組んでいる。管理人9百70〜9百80円で、清掃員

は8百円弱の時給。

(3) 幌延町社会福祉協議会への人件費補助について

⑤ 社会福祉法人人件費(5百20万円程度)。社会福祉士を正職員として新たに雇用したい。

⑥ 10年程度経験ある人で5百20万というのは、近隣町村の人件費と比べ、どうなのか。

⑦ 社会福祉協議会の給与表は、行政食給与表を基本につくっている。

⑧ 社会福祉協議会や幌延福祉会はそれぞれの団体であって、町として関与しづらい部分もあると思うが、これからはお金も出し、行政

第2回 まちづくり常任委員会報告

2月18日

○調査事項

(1) 機構改革について

① 平成18年度に現行の4課8グループとしたが、行政需要の多様化、町民の町政

が引っ張って行くのか。
② 今、高齢者サービスについて、何が必要か総合戦略でも取り組んでおり、社会福祉協議会ではこの程度のサービスをやっていただきたいと話をしている。

③ 社会福祉協議会の理事さん達のサービスの考えは。
④ 在宅サービスが不足しているという考えは、社会福祉協議会も持っている。介護保険制度の制度改革もあり、組織自体を充実させることで、他の展開にも繋がって行くと考ええる。

⑤ 市民後見人実施の状況は。
⑥ 講習会は20〜30人受け、資格をとった方もいる。社会福祉協議会に実施機関を立ち上げていただき、制度を作っていききたいと考える。

⑦ 参画機会の拡充などにより業務量が増えたため、5課9グループ20係とし、効率的、機能的な運営を進め、住民サービスの向上を図る。

(2) 地方創生総合戦略における移住・定住促進策について
① 予算措置は国からの全額助成か。

② 地方創生推進交付金が国から示されているが、条件が厳しい。
③ 空き地、空き家対策は。

④ 現在調査を行っている。空き地、空き家が使えるかを見極めたうえで、登録して公表する。

(3) JR北海道の宗谷本線減便等について

① 車両の老朽化により10両廃車。全道で約80本の減便になる。普通列車がなくなるので、普通乗車券に10円を加えた料金で特急を利用できる提案をいただいた。

② 問寒別の人々が名寄の病院に通っているが、この人達への配慮は。
③ 問寒別の方は、天塩中川から同様に乗れるようお願いしている。

(4) 社会福祉法人幌延福祉会「いざぐら荘」運営赤字対策について
① 今回給与の改定を行い、職員の待遇改善と絡めなが

らバランスをとっている。また、今40床で進めているが、財政を立て直すためには40床でいいのかも検討していく。

② 40床、50床、30床の問題が今後出て来る。
③ 今の40床は経営を圧迫している。30床のほうが良いと思うが、2025年問題を考えると、今後入所される方が増えていくことも想定される。

④ 職員は、最低あと何人いればよいか。
⑤ 40床で18名必要。現実にはパートも含めて14名位でやっている状況。

